

# 症例演習Ⅳ

科目責任者 鈴木圭輔  
学年・学期 4学年・後期

## I. 前 文

4年生の2学期までに臨床科目の講義はすべて終了している。3学期は、5年生から開始される臨床実習の準備の時期であり、また、国家試験に向けて第1歩を踏み出す時期でもある。今回の症例演習では、国家試験の臨床問題に取り上げられている症例について、その問題点を分析し、解決への方策を学ぶことに主眼を置いている。従って、選択肢を除いた症例部分を中心に講義・演習が組み立てられている。とくにシラバスはないが、学生は、講義計画表に記載されている国家試験の問題番号を中心に予習を希望する。この演習は5年生から始まる臨床実習や6年生の学習にも極めて有用なはずである。

## II. 担当科（教授）

内科学（神経）	（鈴木圭輔）
内科学（内分泌代謝）	（麻生好正）
内科学（呼吸器・アレルギー）	（仁保誠治）
内科学（消化器）	（入澤篤志）
内科学（腎臓・高血圧）	（石光俊彦）
内科学（リウマチ・膠原病）	（倉沢和宏）
精神神経医学	（下田和孝）
脳神経外科学	（金 彪）
看護学部	（宮本雅之）
埼玉・脳神経内科	（宮本智之）
埼玉・呼吸器・アレルギー内科	（福島康次）
薬理学	（藤田朋恵）
病理診断学	（石田和之）
総合診療医学	（志水太郎）
生理学	（神作憲司）
生化学	（杉本博之）
埼玉・脳神経外科	（鈴木謙介）
医療安全推進センター	（辰元宗人）

## III. 一般学習目標

- （1）重要な疾患を持つ患者さんの問題点を分析し、解決する能力を得る。
- （2）臨床実習前に症例演習をする事により、臨床実習の効果を高める。
- （3）思考能力を高め、6年生での国家試験を視野に入れた学習にスムーズに適応する。

## IV. 学修の到達目標

- （1）各コマで与えられた症例について、問題点、病態生理、診断、治療などを理解する。
- （2）臨床実習に応用出来るように、理解の幅を広げる。
- （3）一時的な知識の獲得ではなく、6年生までこれらの能力を保持出来るようにする。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	10	9	金	5	110-C-17, 110-C-23, 110-I-68	看護学 部 看 宮 本 雅 之
2		9	金	6	111-A-27, 112-A-30, 112-A-40, 113-E-37	脳神経外科学 宇 塚 岳 夫
3		14	水	1	103-I-27, 110-B-16, 111-E-17, 101-H-21, 112-E-29, 111-C-1	生 化 学 生 杉 本 博 之
4		14	水	2	110-F-17, 103-E-65~67, 110-I-56, 111-C-25, 112-A-57, 112-F-1	生 化 学 生 杉 本 博 之
5		14	水	3	113-D-59	生 化 学 生 杉 本 博 之
6		14	水	4	105-G-49, 106-G-42, 107-A-43	内科学(内分泌代謝) 城 島 輝 雄
7		14	水	5	105-G-65, 105-G-66, 105-G-67, 107-A-35	内科学(内分泌代謝) 城 島 輝 雄
8		15	木	1	105-G-32, 110-E-26, 111-B-33	生 化 学 安 戸 博 美
9		15	木	2	110-E-42, 110-I-75	埼玉・呼吸器・アレルギー・内科 平 田 博 国
10		15	木	3	106-G-40, 109-D-41, 110-D-36	病理診断学 石 田 和 之
11		15	木	4	112-A-57, 112-C-24, 112-A-18	内科学(内分泌代謝) 飯 嶋 寿 江
12		15	木	5	113-D-63, 110-C-26~27, 110-D-26	内科学(内分泌代謝) 飯 嶋 寿 江
13		15	木	6	113-D-23, 110-E-51, 112-F-75, 112-F-76, 112-F-77	内科学(内分泌代謝) 飯 嶋 寿 江
14		16	金	1	113-A-17, 113-B-20, 112-A-72, 113-D-60, 111-F-53	内科学(リウマチ・膠原病) 前 澤 玲 華
15		16	金	2	113-B-27, 113-B-37, 113-B-40・41	総合診療医学 原 田 侑 典
16		16	金	4	113-B-38, 113-C-54~56	総合診療医学 森 永 康 平
17		16	金	5	113-D-16・17, 113-D-61, 113-F-54	総合診療医学 森 永 康 平
18		16	金	6	105-A-21, 105-I-70, 107-D-33	日光(糖尿病・内分泌内科) 中 谷 祐 己
19		19	月	1	111-A-46, 111-C-23	精神神経医学 古 郡 規 雄
20		19	月	2	109-G-45, 110-B-42, 110-D-44	精神神経医学 古 郡 規 雄
21		19	月	3	112-D-66, 112-E-36, 113-A-35, 113-A-69	埼玉・脳神経外科 鈴 木 謙 介
22		19	月	4	109-A-57, 109-B-12, 109-C-26, 27	生 化 学 清 水 裕 晶
23		19	月	5	111-G-48, 113-B-31, 111-B-47	精神神経医学 菅 原 典 夫
24		19	月	6	111-A-46, 111-D-34, 111-I-55	埼玉・脳神経内科 宮 本 智 之
25		19	月	7	111-E-44, 111-I-68, 112-A-31	脳神経外科学 深 谷 春 介
26		20	火	1	107-B-50~51, 109-I-44, 111-I-41	精神神経医学 岡 安 寛 明
27		20	火	2	104-D-35, 105-D-53, 107-D-55	内科学(内分泌代謝) 城 島 輝 雄

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
28	10	20	火	3	109-E-50, 113-A-64	医療安全推進センター 辰 元 宗 人
29		20	火	4	110-G-40, 113-A-55, 113-B-42	内科学 (リウマチ・膠原病) 有 馬 雅 史
30		20	火	5	112-B-31, 113-A-25	精 神 神 経 医 学 古 郡 規 雄
31		20	火	6	112-A-42, 111-G-54	精 神 神 経 医 学 岡 安 寛 明
32		20	火	7	109-A-39, 109-D-38, 109-D-59, 110-A-27, 110-A-52	内科学 (腎臓・高血圧) 里 中 弘 志
33		21	水	1	神経の病態生理学 1	生 理 学 之 福 島 央
34		21	水	2	神経の病態生理学 2	生 理 学 子 加 藤 永 子
35		21	水	3	神経の病態生理学 3	生 理 学 子 小 金 丸 聡 子
36		21	水	4	111-D-23, 111-I-55, 112-A-40, 112-D-72, 113-A-64, 113-E-31	薬 理 学 惠 藤 田 朋
37		21	水	5	113-A-56, 113-C-64, 113-C-65, 113-D-28	内科学 (消化器) 前 田 光 徳
38		21	水	6	106-G-56, 108-B-59, 108-B-60, 108-B-61, 109-I-60	内 科 学 ( 神 経 ) 船 越 慶
39		22	木	1	109-E-51, 111-D-39, 111-D-54, 111-G-56	精 神 神 経 医 学 菅 原 典 夫
40		22	木	2	110-A-42, 112-D-35, 113-D-73	精 神 神 経 医 学 菅 原 典 夫
41		22	木	3	107-F-17, 107-I-51, 108-A-37	内科学 (呼吸器・アレルギー) 池 田 直 哉

#### VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

試験を行い、評価する。

#### VII. 教科書・参考書・AV資料

- (1) 今までに各科で指定した教科書および推薦図書。
- (2) Question Bank, Approach, 111, 112, 113回医師国家試験問題解説書。
- (3) 国試111～113, 医学書院
- (4) イヤーノート, メディックメディア

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP      ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習などに関する質問を受けて返答します。

X. 求められる事前学習，事後学習（カッコ内は所要時間の目安）

事後学習として各授業で配布された資料の復習を行う。事前学習として講義計画表に記載されている。

国家試験の問題番号の予習を行う。（60分）

XI. コアカリ記号・番号

D-2 神経系 D-2-2) 診断と検査の基本，D-2-3) 症候，D-2-4) 疾患。